

やましたの「^{いっさつ}今月の逸冊」

僕が本を読む理由は、考え方・価値観を広げるため。自分の知識や知恵なんてちっぽけなものだ。広げるためには、ある程度情報のインプットが必要だ。それには本が一番投資対効果が高い。たかが1500円程度の投資で、10数倍の価値を得ることがある。それはお金だけではなく、これからの生き方として、人生の糧となる。だから僕は今日も本を読む。



下町ロケット／池井戸 潤 (著) ¥778

-Amazonより内容紹介-

第145回（平成23年度上半期） 直木賞受賞作『下町ロケット』 著者受賞コメント

町工場と大企業の、特許をめぐる攻防を書きました。どこにでもいる普通のサラリーマンたちが活躍する物語です。ハラハラドキドキして、泣いて笑って、そして感動できる——。そんな小説を目指しました。「ああ、おもしろかった」と本を閉じてくれたら、作者としてこんな嬉しいことはありません。

◎ 小説で経営の疑似体験をする！

「半沢直樹」と聞くと懐かしい気持ちになりますが、ドラマが放送されていたのは昨年夏のことです。本当に世の中の流行の移り変わりは早いものです。半沢直樹の著者は、この下町ロケットの本で有名になった方です。本のストーリーは、下町の中小企業の経営者が、自分の夢であるロケットエンジンを開発して、それを商品として実現するために、大企業や銀行などと戦っていく日々が描かれたものです。

ありきたりな感想かも知れませんが、読んでみると本当に泣けて来ます^^; 経営者の感情がヒシヒシと伝わってきます。池井戸さんの著書はこういった「中小企業の経営者」の話が多いので、是非経営者の皆さんには、手にとって貰いたい一冊です。小説だから現実的ではなさそうですが、池井戸さんの小説は、いかにも自分が体験したような話が満載です。なぜかと調べてみたら、銀行出身のようですね。やはり現場で色々見て体験した経験が小説に活かしているのでしょう。

小説を読むことは感情を味あうことだと思っています。主人公になりきって、その疑似体験が出来るのも小説ならではの楽しみです。また、感情を文字で表している比喩や言葉の使い方も勉強になります。こういう言い方をすると、人に伝わるんだなー、と小説で勉強できます。だから、僕はできるだけ小説を読んだり、映画を観るようにしています。自分の感情がどこで動くのか？それも面白いヒントになりますのね。

話は変わりますが、本の出版というのは、まず大きめの単行本が出て、その1-2年後に小さい文庫本が出ます。値段は約半額です。これは面白いやり方です。単行本は買わないのに、文庫本なら買う人も多いです。値段の違いもありますが、商品の大きさを減らすことで売れ行きが変わります。アップルのiPadなども、小さいタイプのiPad miniもあります。今の既存の商品を小さくすれば、顧客の裾野が広がることもあるんです。等身大のくまモンも同じ原理ですかね（笑）

また、DVDなどの映像や映画のサントラなどにも商品が横展開して行きます。皆さんの商品やサービスでも、横展開出来るものがないか検討しても面白いでしょう。同じコンテンツで、二重三重も展開できれば、かなり発展するビジネスになりますね。お盆休みにでもDVD観られて下さい！

